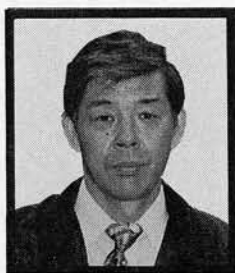


Title	訃報 大阪大学低温センターだより
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 97 P.25-P.25
Issue Date	1997-01
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/4393
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



平成8年12月22日、吹田分室の脇坂義美技官が逝去されました。享年47歳というお若さでした。

脇坂技官は、昭和40年4月大阪大学工学部に奉職され、昭和44年7月文部技官を任官、昭和46年4月に当時新設された低温センター吹田分室の兼任となり、その後、昭和47年6月公務員、平成2年7月技術専門職員（応物・原子力系担当）、平成8年4月技術班長（応物・原子力系担当）をされてきました。

低温センターの兼任となつてからは、ヘリウム液化装置の運転及び維持管理、高圧ガス関連法規への対応、学内研究者への寒剤供給、低温技術の提供などを担当されてきました。学内、特に吹田地区における液体ヘリウム、液体窒素、液体水素の供給を支えてきたお一人でもあり、低温研究の環境整備、設備充実に大変ご尽力されてきた方でした。

脇坂技官は研究活動へも積極的に参加されてきました。低温センターは大学内にあるにも関わらず、研究支援を主目的にしているため学生の配置もなく、なかなか研究に直接携わる機会がないのですが、昭和54年に吹田分室に設置された低温脆性試験機室のワーキング・グループに加わり活発に発言されるなど活動していました。また、分子科学研究所、高エネルギー研究所、核融合科学研究所が開催している技術研究会にも毎年参加し、ヘリウム液面計の改良に関する発表をされたこともありました。

さらに昨年度、吹田分室の大型ヘリウム液化装置導入に際しては、装置仕様書の策定から設置・移動までを担当されました。仕様書策定にあたっては、吹田分室の新システムに相応しいものになるようにと、他大学のヘリウム液化装置を参考にして先駆的な設備を盛り込みながらも既設設備との整合性を図るためにご努力下さいましたし、納入業者決定後は、業者との打合わせ、装置導入時の立ち会い、設置現場での対応など、休日を返上して大学に来られたこともありました。今回の装置導入は、既設装置を可能な限り運転してヘリウム供給を休止させないという方針もあったため、現場サイドとして相当なご苦勞があったと思います。

このようにご尽力下さった大型ヘリウム液化装置ですが、メーカー技術者立会いによる試運転の後、ご自身の手で運転されたのはたった1回だけでした。導入時のご苦勞にも関わらず、このような結果になってしまったことが大変残念でなりません。

ここに謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。